

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

集計日: 令和6年 2月 6日

事業所名 ティンクルスター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	一箇所に集まった際等その都度の状況に合わせて配置を工夫している。	状況によっては臨機応変な対応を全職員が意識して行えるようにしていく。子どもの行動を全体を通して把握をしていく。
	2	職員の配置数は適切である	5	2	死角がない様に配置を行っている。危険箇所の確認を意識し安全性を高めている。	職員間の声掛けを充実させていき、よりよい連携を図り支援を行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5	段差がある為、怪我等に繋がらないように声掛け等を徹底して行っている。	視覚的にも分かりやすいよう掲示物等も活用しながら安全性を高めていく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	毎日のミーティングから情報共有、特記事項、改善策等を話し合い日々の支援を振り返りながら行っている。非常勤職員に対して、連絡帳や当日の申し送りを、周知を行えるように努めている。	常に特性の理解や成長と共に利用者にあった支援を行えるように、日々のミーティングの内容を深いものとしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	自己評価やその都度いただくご意見等を検討し、改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	保護者への配布、ホームページの掲載を行っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7		現在は行っていないが、義務付けがあれば行っていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	社内、社外共に研修の機会を設けており、研修内容を共有している。	今後も継続して機会を設けていき、多くの職員が行えるように努めていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	保護者からの情報や意見、日々の生活の様子を様々な視点で捉えながら適切な計画の作成に努めている。	職員の面談への参加等を継続して行いき、視点を広く持てるよう強化していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	月のプログラムを作成し、職員同士で連携を図りながら行っている。	子どもたちが楽しみをもてるような活動を提供出来るよう、改善を行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	活動を書面化して残し、閲覧が出来るようにしている。	特性や年齢、ニーズに合った活動に幅広く取り組めるように努めていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	個々の課題や目標を把握し、状況や日程を考慮しながら支援を行っている。	個々の課題や目標に沿った支援を継続して行っていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	職員とのミーティングや保護者様、利用者様の意向を様々な方面、視点から特性や困難さに合わせて計画の作成を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	毎朝の申し送りで、活動や役割分担、支援内容の共有、また、連絡事項の漏れがないかを確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	緊急性の高いものは当日に周知を行っている。基本的には翌日の申し送りにて、振り返り、確認を徹底して行っている。非常勤職員への周知も連絡帳や当日の申し送りにて行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	支援記録にて、個々の目標を明記することで、常時目標を確認出来るようにしている。そこから個々にあった支援を提供出来るように努めている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	定期的に保護者様との面談や意向を聞いて、計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	0		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	児発管が中心となり、参画している。	他の指導員の同席も増やしていき、視点を増やして行えるように努めていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	保護者様の同意を得て、保護者様や学校の先生と連絡を取りながら間違いの内容努めている。予定を書面化したもの保護者様と学校へ配布し、相違がないように努めている。また、毎日の申し送り時に与点変更があったものの確認を再度確認を行っている。	予定変更には差異がないように、確認を徹底していき、正確さを向上していけるよう努めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	3	該当児童は現段階ではない。	医療的ケアが必要になった場合、整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	6	保護者様からの聞き取りを中心として、把握に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	7	就労移行サービス事業所と直接のやり取りは行っていない。就労に向けての情緒面の安定を図れるように支援を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	6	特に機会を設けていない。	要望等があれば、検討をしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	6	参加をしていない。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	送迎時や連絡帳を通じて伝えている。必要に応じて電話での対応も行っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1	保護者様からの要望に応じ、個々の相談に応じている。また、毎月配布している通信にて、家庭でも出来る取り組みを掲載している。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	見学時や、契約時に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	送迎時や電話でその都度必要に応じて対応をしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7	コロナウイルスは緩和されてはきているが、安全性を考慮し現状は開催していない。	状況に応じて開催を検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	苦情等があった際には、事実確認や今後の対応策などを指導員全体で話し合いを行い態勢を整えている。	繰り返し起こらないよう対策をし、十分に話し合いを行っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	毎月、通信や月ごとの活動予定、行事予定を配布をしている。	
	35	個人情報に十分注意している	7	0	鍵付きの書庫を使用し、個人情報漏洩防止を行っている。個人情報が記載されているものの処理をシュレッターなどを用いて厳重に処理をしている。	名前の記載のあるメモ書きや封筒などの処理も適切に行い、意識を高く持ち、漏洩がないよう務めていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	口頭以外に、視覚的に分かるものや手紙なども活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7	行っていない。	個人情報の兼ね合いで行っていない。保護者様の要望があれば検討をしていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	マニュアルを作成して職員間で周知をしている。保護者様へは紙面で配布を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	年2回実施をしている。訓練後は、災害時に役立つ工作やクイズ、映像を見る等利用児童が興味を持てるような活動を行い、理解を深めている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	外部研修、内部研修を行い、マニュアルを作成して周知できるようにしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	現在該当する利用者はいない。外部研修、内部研修を行い、マニュアルを作成して周知できるようにしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	保護者様から聞き取りを行いアレルギーのある利用者様の食品を提供する際は、別の袋や箱等に保管をしている物を提供し、最善の注意を払い提供を行っている。	食品以外の活動で使う物に対しても、手荒れなどに繋がる道具がある為、注視してみている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	ヒヤリハットのノートを作成し、全体で周知している。	様々な視点や事例を挙げていく事で安全性を強化していく。